

1 学校教育目標

社会の形成者として「知・徳・体」の確かな基礎を身につけた生徒の育成 (1)「知」 確かな学力を培い、自主的に学ぶ意欲・態度を育てる (基礎学力と学ぶ力) (2)「徳」 豊かな心で互いの人格を尊重し、勤労と奉仕の精神を育てる (精神力・思いやり・協力) (3)「体」 健康な心と身体、体力の向上を図り生きる力の基盤をつくる (生活自己管理と生活規範)
--

2 目指す姿(学校像・生徒像・教師像)

<b>【学校像】</b> ○「美しい校舎」 学習環境として整い、かつ知的刺激を与えられる学校 ○「明るい挨拶」 生徒・教職員がそれぞれ信頼で結ばれ、挨拶が自然にされる活気ある学校 ○「規律ある学校生活」 安心して学習に集中できる秩序と落ち着きがある学校 <b>【生徒像】</b> <確かな学力を身につけた生徒> <豊かな心をもつ生徒> <心身ともに健康な生徒> <b>【教師像】</b> <学校目標達成へ向けて「協働・チーム」の意識をもって「やりきる」教師> <授業の充実へ向けて「授業力」を高める努力をする教師>
---

3 現状と課題

本校は、教育熱心な家庭環境のもとで、落ち着いた生活習慣と真面目な学習態度の生徒が多い。また部活動や学校行事にも積極的に取り組み、活発な生徒も多い。しかし、基礎基本の学力やコミュニケーション能力が十分に身につけておらず、集団行動を苦手とする生徒が増え、ささいなトラブルから発展する生徒指導上の課題が出ている。より授業改善をすすめ、学校生活の中心である学習において生徒個々の充実感を養い、自ら学ぼうとする態度を養い、生きる力の基盤を育成していきたい。引き続き予防的生徒指導の取り組みとして、生徒理解を学校体制としてさらに進め、生徒一人ひとりの自尊心・自己有用感の育成を学校教育活動の様々な場面において意識的に導入していきたい。これらの現状と課題を学区内小学校との連携教育で進める取組をさらに進めていきたい。

4 目標

<b>【中期経営重点目標】</b> 自他を尊重する心と協力する態度と共に、中学生としての生活規範意識を確立し、身の回りの問題を解決していく力を育成し、充実した学校生活や学習活動ができるようにする。		<b>【評価指標】</b> 学校評価アンケートでの該当質問項目に対する生徒・保護者の肯定的回答の割合と生徒指導問題行動数等
短期経営重点目標	評価指標(成果指標)	主な具体的方策(努力指標)
基礎学力の定着と学ぶ意欲をもって学習に取り組む生徒を育てる。 <b>【教務部】</b>	学校評価アンケートでの該当質問項目に対する生徒の肯定的回答の割合と月一冊以上読書した生徒の割合	教科授業の校内授業研修会を実施し、ひろしま型カリキュラム・協同学習の方法等、ICT 機器を活用しての授業の充実と共に、新学習指導要領を踏まえた学習指導の工夫・改善に取り組む。(評価観点における指導と評価の一体化) 生徒の読書活動を充実させ、生徒一人ひとりが1ヶ月に1冊以上の本を読むよう支援する。100%達成を目標とする。 (「朝の読書」の時間の充実と日々の読書の啓蒙)
道徳・特別活動・教科授業など全ての教育活動において自他を尊重し、協力する態度・規範意識を育てる。 <b>【教務部・生徒会部】</b>	学校評価アンケートでの該当質問項目に対する生徒の肯定的回答の割合	「道徳」の校内授業研修会を実施し、思いやりと協力する心を育て、規範意識を育てる授業の工夫について全校体制で研修しその充実を図る。 (「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」の活用の推進) 良質なコミュニケーションを土台として、自他を認める活動や所属意識を、学校行事等を通して体験させる。
基本的な生活習慣の確立をはかる。 (あいさつ・時間を守る・身だしなみ・美化清掃活動など) <b>【生徒指導部・生徒会部】</b>	病気以外の遅刻者数と学校評価アンケートでの該当質問項目に対する生徒の肯定的回答の割合	生徒指導のポイントを明確にすることで学校体制としての指導を明確にし、病気を理由とする場合を除いた生活の乱れによる遅刻をなくす指導する。 教育環境の校内整備を進めるとともに、生徒会を中心として、あいさつ運動、清掃・美化活動に取り組ませ、自主的活動の達成感を味わわせる。
生徒理解をすすめることで、生徒指導上の問題行動や課題を改善する。 <b>【生徒指導部】</b>	生徒指導問題行動数・内容の分析	コンサルテーション会議を毎月実施し、生徒理解を進め、予防的生徒指導に取り組む。 学校適応感尺度を2回実施し、生徒理解を深め、生徒一人ひとりへの支援に生かす。
学校の情報を積極的に発信、地域との連携を推進し、地域に根ざした活力ある学校づくりに努める。	学校評価アンケートでの該当質問項目に対する事業の実施と保護者の肯定的回答の割合	「中学校区連携教育プロジェクト」として連携教育の指針を明確にする。(義務教育9ヵ年で目指す生徒像を小・中学校共有化していく) 学校 Web、「学校だより」、「進路通信」、「学級通信」等で、学校の情報を積極的に家庭・地域へ発信する。